

8

2016 | No.388



### マンボウ

マンボウは一度に3億個以上もの卵を産む。しかし、生存率は非常に低く、成魚になるのはわずか数匹しかない。

# JAPICNEWS

**JAPIC** 一般財団法人 日本医薬情報センター  
Japan Pharmaceutical Information Center

## Contents

<b>巻頭言</b>	
「貼付剤雑感」	帝國製薬株式会社 代表取締役社長 藤岡 実佐子…… 2
<b>インフォメーション</b>	
医薬品集発刊!	
JAPIC「医療用医薬品集2017」CD-ROM付を8月下旬発刊します	4
JAPIC「一般用医薬品集2017」を9月初旬発刊します	4
7月末発売!	
「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2016年7月版」	5
「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2016年7月版」	5
<b>コラム</b>	
最近の話題「家庭用品等に使用される化学物質による健康被害:安全対策&トピックス その2」	
国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員 鹿庭 正昭 …… 6	
くすりの散歩道 No.99「元素と薬」	
(一財)日本医薬情報センター データベース検索サービス課 井上 彰 …… 9	
<b>トピックス</b>	
「平成28年度JAPICユーザ会」を開催しました	10
「理事会」「評議員会」の概要報告	11
JAPICサービスの紹介	
医薬品情報データベースiyakuSearch	12
外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋)	14
図書館だよりNo.314 情報提供一覧	15

## 貼付剤雑感

帝國製薬株式会社 代表取締役社長  
藤岡 実佐子 (Fujioka Misako)



### 1. 歴史

帝國製薬は、香川県に本社を置く、1848年創業、1918年創立の医薬品メーカーです。

売上の83%が医療用医薬品であり、85%がOTCを含むパップ剤、テープ剤等の貼付剤です。

1938年に貼付剤の端緒となるパップ剤「ホルキス™」が発売されましたが、当時のパップ剤は成形されておらず布に泥状の膏薬を塗って貼るというものでした。のちに成形されたパップ剤が開発され、1974年に医家向けパップ剤の許認可を取得し「パナパップ-L™」を発売。1988年に二世世代と呼ばれる消炎鎮痛薬入りパップ剤「カトレップ™」の承認を取得しました。1999年に米国FDAからパップ剤として初めての処方箋薬としてリドカイン5%配合の「Lidoderm™」の承認を受け、現在このリドカイン製剤は50か国あまりで販売されています。

### 2. 貼付剤

貼付剤 (Patches) とは、書いて字の如く皮膚に貼付する製剤ですが、大きく分けてテープ剤とパップ剤の2種類があります。テープ剤 (Plasters/Tapes) は水分をほとんど含まないもの、パップ剤 (Gel Patches) は水分を含むものです。当社が製造する貼付剤は、パップ剤が75%、テープ剤が25%です。因みに、パップ (pap) とは英語でも泥状を意味しますが、元々は「キリストの唾」に由来するオランダ語が発祥のようです。

ところで、消炎鎮痛の貼り薬といえば、一般的に「湿布薬」と言われますが、湿布は布を湿らせ、冷たくしたり温かくしたりして患部にあてる治療のことをいい、「湿布薬」は、正式な剤型を示す用語ではありません。

初めに医療用として承認を得た貼付剤は、サリチル酸、

L-メントール、d l-カンフルやカプサイシンなどを有効成分とし、皮膚に刺激を与えて血流を良くし痛みを和らげる第一世代と呼ばれるものでした。

次に現れたのが、皮膚を通して体内にNSAIDsなどの有効成分を取り込む二世世代と呼ばれる製剤です。現在貼付剤として多く流通しているのが、この二世世代です。さらに、麻薬製剤、気管支拡張剤、認知症治療剤、ステロイドなどの、全身作用型の経皮吸収型製剤が多く出ていて、単なる貼り薬と呼ばれていた製剤が、皮膚を透過することにより、経口剤や注射剤に代わりうる、多様な製剤として患者様の選択肢を広げるに至っています。

貼付剤は経口剤に比べ、投薬後の有効成分の血中濃度の上昇が緩やかで、かつ長時間に亘りその濃度が持続するという点、経口剤のような消化器系に対する副作用が回避できること、副作用が生じた場合は、剥がしてしまえば体内から有効成分が速やかに消失させることができる等の長所があることは、既に広く知られているところです。

同じ貼付剤でも、全身作用型のもの、皮膚を通して有効成分が血液に入ることに眼目が置かれますが、NSAIDsのような局所作用型製剤は、血液に至るまでの皮下組織への浸透と病巣部分での濃度を高め、効果を発揮させることが狙いとなります。それにより、血液への有効成分の高濃度移行による副作用を軽減することも期待できます。(外用協30年の道のり110頁より)

貼付剤は3層構造になっています。

一番下になるのが、支持体と呼ばれるもので、昔はガーゼなどでこれに薬を塗付していた部分です。現在では不織布、ニット素材、プラスチックフィルムなどでできています。

その上に塗付されているのが膏体で、NSAIDsなどの有効成分と高分子化合物又はこれらの混合物でできた基剤が混合されたものです。この高分子化合物が水溶性高分子であればパップ剤、脂溶性高分子であればテープ剤となります。一番上に載っているのが、それらの膏体を保護するためのライナーと呼ばれるフィルムで、ポリプロピレンやセロファン等でできています。

飲めばすぐに消化管等から有効成分が吸収される経口剤と異なり、貼付剤の成分は皮膚を通して体内に入っていないかなくてはなりません。しかも有効成分だけでなく、他の基剤や支持体の性質によって、使用者（患者様）の皮膚に対する製剤の影響が異なります。薬剤の皮膚刺激はもとより、使用感が各人によって異なるというのが貼付剤の大きな特徴です。

### 3. 後発医薬品普及政策と貼付剤

財政健全化のために、後発品の使用促進策が取られ、厚生労働省では、後発医薬品のある先発医薬品とその後発医薬品の合計数量に対する後発医薬品の割合を2017年半ばまでに70%、2020年までのなるべく早い時期までに80%となることを目標としました。

この目標達成のため、2014年から、最初の後発品が薬価収載されてから5年を経過した後の長期収載品の薬価は、後発品への置き換えが進まない場合、薬価改定ごとに、通常の市場実勢価格の引き下げに加えて、さらに特例的な引下げが行われることになりました。所謂「Z2特例引下げ」と呼ばれているものです。

2014年は後発医薬品のシェアが40%から60%未満の長期収載品は▲1.5%、20%から40%未満のものは▲1.75%、20%未満しか置換わらないものは▲2.0%が引き下げられました。

2016年度はさらに厳しくなり、置換え率が50%から70%未満のものが▲1.5%、30%から50%未満のものは▲1.75%、30%未満の置換え率だと▲2.0%引下げが行われたのです。

この結果、後発医薬品への置き換えが進まないという理由で2%の特例引下げが行われた長期収載品の割合は、外用剤で60.6%、注射剤で50%、経口剤で25%となり、外用剤で置換えが進んでいないことが判ります。

中でも、貼付剤で2%の引き下げが行われたものは、インドメタシン、ケトプロフェン、フルルビプロフェンなどNSAIDs貼付剤37品目中28品目、1.75%だとフェルピナク、ジクロフェナクナトリウムなど9品目と、すべてが▲1.75%以上の引き下げとなり、外用剤の中でもとりわけ置換えが進んでいない製剤だということができそうです。

平成27年度第1回都道府県医師会長協議会での「後発医薬品の質の担保」についての質問の中で、「外用薬では基剤が異なることによってその効果が全く減じ

てしまうことを指摘する皮膚科医が多数存在する（以下略）」というくだりがあります。

また、厚生労働省が策定した「医薬品産業ビジョン2013」で、基礎的医薬品について書かれている中で、「外用製剤メーカー」に関して、「外用製剤は、経皮吸収への注目の高まりなどにより、広く医療現場で使用されている基礎的な医薬品である。また、製品の使用感が重視されるなど、他の医薬品とは異なる性質を有しているものである。また、上市されてから長期間にわたって継続的に使用されているものも多い。」との記述があります。

貼付剤すべての後発医薬品に質的に問題があり、効果が減ってしまうとは思いませんが、このように、基剤に含まれる有効成分以外の原材料が多く、それが患者様各自個性のある皮膚に接していることになるため、また貼付する使用部位が人によって異なるため、同じ製剤でも、貼りやすさ、剥がれ難さ、剥がしやすさ等の使用感は様々で、特に皮膚刺激などの副作用については、人によって現れ方が異なります。それが、先に述べた、貼付剤の後発品への置き換えがなかなか進まない理由となっていると考えられます。

このような状況の中で、貼付剤の長期収載品の薬価の下げ幅を特例で大きくしても、後発医薬品の促進には繋がらないと予想されるばかりか、長期収載品と後発医薬品の薬価差が小さくなる分、ますます長期収載品のシェアは高いままとなると思われます。

従って、貼付剤の薬価引き下げについては、他剤と同様に置換え率に従って段階的に特例引下げを行うのではなく、その特性に応じた方策を考えていただきたいと思います。

### 4. 海外へ

貼付剤、特にNSAIDs貼付剤は日本で生まれたものです。例えば、英語で「肩が凝る」という単語がなく、「肩が痛い」という形で表現します。

しかし、外国の方が肩こりや腰痛がないのかといえば、そんなことはありません。スポーツ後の筋肉痛もあるはずで、そのような痛みに、日本の「貼り薬」が随分役に立つのではないかと。現に外国の方に、当社の製品を試していただくと、多くの方が目から鱗だと喜ばれ、日本からのお土産に所望されるファンもいらっしゃいます。いわば、外国にアンメットニーズがあると思われるのですが、特に人口が多いアジアの国々などでなかなか日本のように貼付剤は一般化しません。経口剤などに比べて原価率が高くなりがちであること、国による規制、流通システムがまちまちであることなど、ハードルは高いのですが、世界中の人からこれらの痛みを取ることに貢献したい。貼付剤メーカーの見果てぬ夢は続きます。

## 医薬品集発刊!

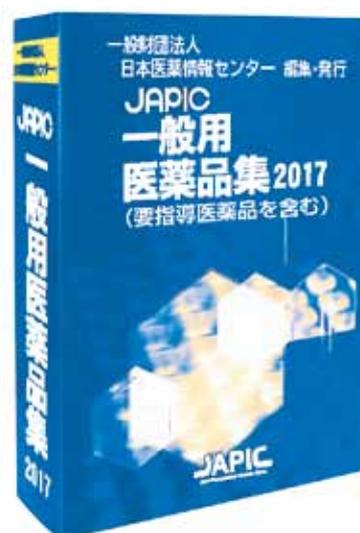
### JAPIC「医療用医薬品集2017」CD-ROM付を8月下旬発刊します

- ・6月17日付の後発品薬価収載、6月20日付の効能追加等を含む、7月1日入手分までの情報を収載(約21,000製品)。
- ・医療用医薬品添付文書情報を有効成分(約2,200成分)ごとにまとめて掲載。約1,400成分については「構造式」も掲載。
- ・同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより効能・効果が異なる場合はその違いを明記。
- ・今回より、3分冊(分冊1:五十音索引+本文前半、分冊2:五十音索引+本文後半、分冊3:その他索引+付録+薬剤識別コード一覧)でのご提供。



### JAPIC「一般用医薬品集2017」を9月初旬発刊します

- ・国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅(約11,000製品収録)。  
「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載しています。
- ・最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集。
- ・付録には、重篤副作用疾患別対応マニュアル、国内副作用報告の状況、リスク区分情報等を収録。



## 7月末発売!

### 「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2016年7月版」

- ◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。  
(医療用は2016年7月、一般用は2016年6月までのJAPIC入手分を収録)
- ◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。データ出力形式は、タブ区切り／カンマ区切りテキスト(csv)から選択できます。
- ◇薬価、先発品等／後発品情報、規制区分、剤形、添加物、薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。
- ◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。  
インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適です。
- ◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。  
(医療用：週1回更新、一般用：月1回更新)
- ◇単品¥13,000(+税)。  
年間セット4枚(7月・10月・1月・4月) ¥23,806(+税)。



### 「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2016年7月版」

- ◇一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報(2016年6月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。
- ◇「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載しております。
- ◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。
- ◇インターネット経由で、添付文書PDFの表示も可能です。
- ◇JANコードによる製品直接表示機能も搭載。
- ◇¥3,000(+税)／単回。  
[お問合せ先] 事務局 業務・渉外担当 (TEL: 0120-181-276、FAX: 0120-181-461)



# 最近の話題

## 家庭用品等に使用される化学物質による健康被害：安全対策&トピックス その2

国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員  
鹿庭 正昭 (Kaniwa Masaaki)



### 4 家庭用品等に使用される化学物質による健康被害の原因究明の取り組み (トピックス)

#### 4.1 ゴム製品によるACD：ゴム添加剤における交差アレルギー (4,5)

著者らは、1980年以降、天然ゴム・合成ゴムに配合されるゴム添加剤によるACDの原因究明を進めてきた。(表2)

手術用・家庭用ゴム手袋では、ジチオカーバメート(DTC)系加硫促進剤、アミン化合物が主要な原因化学物質であった。加硫時の熱分解により生成した、同じアルキル基(メチル、エチル、ブチル基)を有するチウラム系化合物-DTC系化合物-アミン化合物はパッチテストで同時に陽性反応(交差反応性)を示し、反応性はメチル>エチル>ブチル基の順で強かった。

ゴムはきもものでは、メルカプトベンゾチアゾール(MBT)系加硫促進剤由来のMBT、2,2'-ジベンゾチアジリジルスルフィド(MBTS)が主要な原因化学物質であった。MBT骨格が抗原決定構造(エピトープ)となり、MBT系加硫促進剤間で交差反応性を認めた。

工業用ゴム製品や農作業用ゴム長靴では、p-フェニレンジアミン(PPD)骨格を有するアミン系老化防止剤のN-イソプロピル-N'-フェニル-PPD(IPPD)、N-ジメチルブチル-N'-フェニル-PPD(DMBPPD)が主要な原因化学物質であった。PPD骨格がエピトープとなり、PPD系老化防止剤はPPDと交差反応性を示した。同時に、PPD骨格を有する毛染め成分、アゾ系分散染料との交差反応性も懸念され、要注意である。(6,7)

ACD患者用代替品として、主要なゴムアレルギーである含硫黄系加硫促進剤を使用しないウレタンゴム、シリコンゴム等のゴム製品、熱可塑性樹脂、ポリ塩化ビニル、ポリエチレン等のプラスチック製品が有効である。近年、含硫黄系加硫促進剤を使用しない、ACDフリーのニトリルゴム製品が新規開発され、ACD患者用代替品として注目されている。

#### 4.2 天然ゴム製品によるI型アレルギー：ラテックスアレルギー-ラテックス・フルーツ症候群-口腔アレルギー症候群 (8,9)

1991年、米国で医療用具の注腸用カテーテル(天然ゴム製バルーン付き)による死亡例が発生、天然ゴムラテックスに元来含まれる水溶性蛋白によるI型アレルギー(ラテックスアレルギー)が世界的に注目された。日本では、1992年、日本接触皮膚炎学会がラテックスアレルギーを特別講演で取り上げた。1996年、臨床医(皮膚科、小児科等)、行政、業界等関連分野の専門家により「日本ラテックスアレルギー研究会」が発足した。

ラテックスアレルギー対策天然ゴム製品として、熱水処理や酵素処理による除蛋白、塩素での表面処理、ウレタン樹脂やシリコン樹脂での表面コーティング等を行った製品、さらに従来からのパウダータイプに代えパウダーフリータイプが登場した。それらの対策品にも反応する高感作レベルの患者用としては、非天然ゴム製品(クロロプレングム、ニトリルゴム、熱可塑性樹脂製品等)が市販された。

ラテックスアレルギーのハイリスクグループとして、病院関係者(医師、看護婦等)、手術を繰り返し受けた患者だけでなく、主婦も含め天然ゴム製品を日常的に使用・接触する人も要注意である。特に手術を受ける場合、事前にラテックスアレルギーの有無の確認が必要である。

また、ラテックスアレルギー患者ではバナナ・アボガド・キウイ・栗等のフルーツアレルギーとの交叉反応(ラテックス・フルーツ症候群)、口腔アレルギー症候群(OAS)の併発とともに、花粉症にも十分気をつける必要がある。天然ゴム、フルーツ、花粉に含まれる「植物の生体防御蛋白質」が共通エピトープとなり交差反応性を示すこと、フルーツを食した際の口腔や咽頭のかゆみを主症状とするOASだけでなく、重篤な全身性の蕁麻疹やアナフィラキシー症状を引き起こす可能性もあり、十分な注意が必要である。

#### 4.3 デスクマット（ピリジン系抗菌剤）によるACD： ACD事例における重大製品事故・第1号 10)

2006年、デスクマットに含有されていたピリジン系抗菌剤（2, 3, 5, 6-テトラクロロ-4-〔メチルスルホニル〕ピリジン（TCMSP））によるACD事例が初めて重大製品事故に認定され、社告等の注意喚起、製品回収・交換が実施された。1997～2001年に販売されたデスクマットによるACD事例は2006～2010年にかけて1,235例にのぼり、そのうち29例が重大製品事故に認定された。（表3）

#### 4.4 イソチアゾリノン系防腐剤によるACD：交差反応性 11～14)

2010年、イソチアゾリノン系防腐剤の2-n-オクチル-4-イソチアゾリン-3-オン（OIT）が使用された冷却パッドによるACD事例が重大製品事故に認定された。同年、5-クロロ-2-メチルイソチアゾリン-3-オン（CMI）、2-メチルイソチアゾリン-3-オン（MI）、OIT等が使用された冷感タオルによるACD事例も報告された。（表3）

1980年代、欧州等でリーブオン（洗い流さない）化粧品（クリーム、乳液等）に配合されたCMI/MIによる重篤なACD事例が多数発生した。現在、EUではCMI/MI（15ppm以下）が化粧品全般に使用でき、日本ではCMI/MI（15ppm以下）はリンスオフ（洗い流す）化粧品のみとなっている。MI単独使用ではリンスオフ化粧品（国際的に100ppm以下）となっている。

近年、EUでMI単独使用が増加し、MIのパッチテスト陽性率が上昇したことが指摘された。日本でも、日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会において共同研究テーマとしてイソチアゾリノン系防腐剤のパッチテスト陽性率の調査が進められている。

文献調査により、イソチアゾリノン系防腐剤について、冷却パッド、冷感タオルだけでなく、化粧品、塗料、接着剤、トイレタリー製品等、国内外で幅広く使用され、職業性及び非職業性ACDの原因化学物質となっていることが明らかにされている。

#### 4.5 薬用石鹼（加水分解小麦）によるI型アレルギー： 経皮感作-経口惹起メカニズム 15～17)

2010年、日本で、保湿剤として加水分解小麦が配合

された薬用石鹼により、じんましん、アナフィラキシーショックを含めたI型アレルギー事例が複数報告された。通常的小麦アレルギーとともに、小麦依存性運動誘発性アレルギーも報告された。

日本アレルギー学会、日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会、NITE、NIHS等が連携して、「化粧品中のタンパク加水分解物の安全性」特別委員会が発足した。「特別委員会・中間報告」（2012年5月28日）では確定例463例、日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会による「症例の疫学調査・中間報告」（2012年8月23日）では確定例1,147例にのぼった。

原因となった薬用石鹼には界面活性剤の中に加水分解小麦（グルパール19S）が0.3%配合されていた。この薬用石鹼で繰り返し洗顔することで、抗原が毎日少しずつ経皮的にまたは経粘膜的に吸収されたと考えられた。疫学研究では、石鹼洗顔後の症状は眼瞼浮腫、痒み、顔の膨疹、鼻汁等の軽度の症状が主で、アナフィラキシーを生じた症例はなかった。一方、小麦摂取後では、50%以上の症例で呼吸困難・嘔吐・下痢等の重篤な症状を、25%以上でアナフィラキシーショック症状を生じていた。

加水分解小麦（グルパール19S）は小麦を酸加水分解したもので、新たなアレルゲンが生成した可能性が指摘された。小麦タンパク質の経皮感作性は、酸加水分解により小麦タンパク質・グルテンのグルタミン残基が脱アミド化したことにより増大すること、酸加水分解と同様に消化によってもグルテンの脱アミド化が起こることが確認された。加水分解小麦を含有する薬用石鹼による即時型アレルギー事例では、加水分解小麦、特に小麦タンパク質・グルテンが脱アミド化したものが真のアレルゲンと考えられた。

# 最近の話題

文献

- 4) 鹿庭正昭：化学物質による皮膚障害 (18) 各論11. 接触アレルギー性皮膚炎の伝達の実態 (1) ～ゴム製品によるアレルギー性接触皮膚炎～。医薬ジャーナル, 37 (3)、5-13 (2001)
- 5) 鹿庭正昭：ゴム製品による健康被害の発生実態および健康被害情報の伝達の現状—アレルギー性接触皮膚炎、ラテックスアレルギーを中心に—。日本ゴム協会誌, 77 (6)、213-218, 2004
- 6) 消費者庁・安全調査委員会報告書：「毛染めによる皮膚障害」(2015年10月23日)
- 7) 中川幹雄、河合敬一：連載 化学物質による皮膚障害 (66) 各論59 染料によるアレルギー性接触皮膚炎、医薬ジャーナル 41 (3)、903-912, 2005
- 8) 日本ラテックスアレルギー研究会：<http://latex.kenkyuukai.jp/special/?id=1270>
- 9) 矢上 健：ラテックスアレルギーとしての植物の生体防御蛋白質、国立医薬品食品衛生研究所報告、116、46～62, 1998.
- 10) 厚生労働省・化学物質安全対策室：「デスクマットの使用に伴う重大製品事故について」(2007年) <http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/katei/topics/070601.pdf>
- 11) 厚生労働省・化学物質安全対策室：「冷却パッドの使用に伴う重大製品事故について」(2010年) <http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/katei/topics/100324-1.pdf>
- 12) 国民生活センター：水でぬらすだけで冷感が得られることをうたったタオル-湿疹・かぶれの原因となることも- (2012年1月19日、3月30日)
- 13) 西岡和恵、小泉明子、瀧田祐子他：イソチアゾリノン系防腐剤による接触皮膚炎の4例 (冷感タオルによる1例および美容液マスクによる3例)、日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会誌、10 (1)、35-46, 2016
- 14) 河上強志、伊佐間和郎、五十嵐良明：イソチアゾリノン系防腐剤による接触皮膚炎—家庭用品に起因する症例を中心として、日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会誌、8 (3)、147-161, 2014
- 15) 国民生活センター：「小麦加水分解物を含有する「旧茶のしずく石鹸」(2010年12月7日以前の販売分)による危害状況について—アナフィラキシーを発症したケースも—」  
[http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20110714\\_1.pdf](http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20110714_1.pdf)
- 16) 日本アレルギー学会：「化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する特別委員会・中間報告」(2012年5月28日) [http://www.fa.kyorin.co.jp/jsa/jsa\\_0528\\_01.pdf](http://www.fa.kyorin.co.jp/jsa/jsa_0528_01.pdf)
- 17) 日本アレルギー学会：「化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する特別委員会・報告」(2013年8月31日) 最終Web20130831特別委員会報告書.pdf

表2 ゴム製品によるアレルギー事例

原因化学物質	アレルギー症状	用途	報告年
<b>&lt;ジチオカーバメート系加硫促進剤&gt;</b>			
ジメチルジチオカルバミン酸亜鉛 (ZDMC)	ACD	医療用ゴム手袋	1989, 1991
ジエチルジチオカルバミン酸亜鉛 (ZDEC)	ACD	医療用ゴム手袋	1989
ジブチルジチオカルバミン酸亜鉛 (ZDBC)	ACD	医療用ゴム手袋	1989
エチルフェニルジチオカルバミン酸亜鉛 (ZEPIC)	ACD	作業用ゴム手袋	1987
<b>&lt;アミン&gt;</b>			
ジメチルアミン (DMA)	ACD	医療用ゴム手袋	1991
ジエチルアミン (DEA)	ACD	医療用ゴム手袋	1986, 1987
ピペリジン (PIP)	ACD	医療用ゴム手袋	1986, 1987
<b>&lt;メルカプトベンゾチアゾール系加硫促進剤&gt;</b>			
2-メルカプトベンゾチアゾール (MBT)	ACD	ゴムはきもの	1982, 1983 1990
2,2'-ジベンゾチアジルスルフィド (MBTS)	ACD	防護具 (かぶれ)	2000
	ACD	ゴムはきもの	1983, 1990
<b>&lt;P-フェニレンジアミン系老化防止剤&gt;</b>			
N-イソプロピル-N'-フェニル-p-フェニレンジアミン (IPPD)	ACD	作業用ゴム手袋	1980
	ACD	工業用ゴム製品	1990
	ACD	農作業用ゴム長靴	1996
	ACD	付帯 (かぶれ)	2001
N-1,3-ジメチルブチル-N'-フェニル-p-フェニレンジアミン (DMBPPD)	ACD	農作業用ゴム長靴	1996

ACD：アレルギー性接触皮膚炎

表3 抗菌製品によるアレルギー事例

原因化学物質	アレルギー症状	用途	報告年
<b>&lt;ピリジン系抗菌剤&gt;</b>			
2,3,5,6-テトラクロロ-4-(メチルスルホニル)ピリジン (TCMSP)	ACD	椅子 (PVC レザー製表地)	1998, 2005
	ACD	デスクマット (PVC)	2000, 2002 2005
<b>&lt;イソチアゾリノン系抗菌剤&gt;</b>			
5-クロロ-2-メチル-4-イソチアゾリノン-3-オン (CMI) (ケーソン CG)			
2-メチル-4-イソチアゾリノン-3-オン (MI)	ACD	殺菌防腐剤 (香粧品)	1987, 1989, 1990, 1991, 1992
		殺菌防腐剤 (冷感タオル)	2010
2-ロ-オクチル-4-イソチアゾリノン-3-オン (OIT, ケーソン 893)	ACD	殺菌防腐剤 (塗料, 接着剤)	1992, 1996 (スベ、イ、ト、イ)
	ACD	殺菌防腐剤 (冷却パッド, 冷感タオル)	2010
1,2-ベンズイソチアゾリノン-3-オン (BIT)	ACD	殺菌防腐剤 (切削油, 塗料)	1990

ACD：アレルギー性接触皮膚炎

# くすりの散歩道

NO.99

## 元素と薬

(一財)日本医薬情報センター データベース検索サービス課  
井上 彰 (Inoue Akira)



ウンウントリウムと系統名で呼ばれた原子番号113について、日本の研究所が命名権を取得した<sup>[1]</sup>。周期律表への興味・好奇心も理系に進むきっかけになった一人として、とても嬉しいニュースである。

今回のIUPACの発表で、歯抜けであった部分が揃い118個発見されたことになる元素も、実際に私たちにかかわる元素はそのうち8~90くらいだろうか。酸素 ( $^8\text{O}$ ) や窒素 ( $^7\text{N}$ ) など大気に含まれる元素から、有機化合物の大元たる炭素 ( $^6\text{C}$ )、金 ( $^{79}\text{Au}$ ) や銀 ( $^{47}\text{Ag}$ ) など物質としての性質以外に資産として価値のあるもの、微量ながら生体内の様々な生理作用に関わる元素、元素も様々な形、分子あるいは化合物として存在している。

さて医薬品も、この元素を組み合わせた化合物は主成分となる。大部分の医薬品の主成分は、炭素と水素 ( $^1\text{H}$ )、窒素は化学構造に持つだろう。塩素 ( $^{17}\text{Cl}$ ) や硫黄 ( $^{16}\text{S}$ )、フッ素 ( $^9\text{F}$ ) などよく見かける。塩の形ではナトリウム ( $^{11}\text{Na}$ ) やカリウム ( $^{19}\text{K}$ ) も。しかし中にはあまり見かけない元素を持つ医薬品もちらほらと見かける。医薬品として使われる元素というのは果たしてどのくらいあるのだろうか。ひょっとすると今は使われていなくても、研究の結果新たな元素の利用法が見いだされる日もあるかもしれない。

医薬品に含まれる最小の原子番号を持つ元素は、水素になる。それでは最大の原子番号を持つ元素を含む医薬品はなんだろうか。おそらく長い間、下痢止めや傷薬として使われるビスマス ( $^{83}\text{Bi}$ ) が最大であったのだろう。それも最近、ラジウム ( $^{88}\text{Ra}$ ) を含む医薬品が承認され、このランキング(?) も入れ替わった事になる。歴史的に医薬品として使われた最大の原子番号を持つ元素はトリウム ( $^{90}\text{Th}$ ) になるのだろうか。二酸化トリウムを主成分とした造影剤であった。戦前に使われ始めた医薬品とのことだが、この医薬品は体内に沈着し、長期間の放射線の内部被曝により肝臓癌や血管肉腫、白血病などの深刻な被害を引き起こしてしまった<sup>[2]</sup>。

話題を変えて医療機器では、医薬品ではあまり使われない様な元素を部品や資材の原料とした製品がたくさん存在するだろう。しかし最大のものとなるとプルトニウム ( $^{94}\text{Pu}$ ) をベースメーカーの動力に使ったという事例があるとのことだ。PubMedを検索してみると多くはないが確かにヒットする。プルトニウムといえば核兵器あるいは原子力発電などのイメージが強い。しかしプルトニウムのある種の同位体は、崩壊熱を使った長期間・安定した電力供給源として、電源の交換が困難あるいは不可能な用途に利用されている。プルトニウムの名前の元となった冥王星 (Pluto) へ向けて10年に渡る長い旅に赴いたニュー・ホライズンズにもこの電源がつまれている<sup>[3]</sup>。プルトニウムを動力源としたベースメーカーは30年も稼働した例もあるそうだが、やはり物が物だけに、活用となると難しい課題も多いのだろう。

冒頭に述べた113番元素のニホニウム ( $^{113}\text{Nh}$ )<sup>\*</sup>、元素合成には前述のビスマスと亜鉛 ( $^{30}\text{Zn}$ ) を使うらしい。元素合成の難易度もさることながら、短命な半減期の元素ゆえ医薬品や医療機器としての活路は難しいのかな、と。そんなことに寂しさを少し感じるのは、周期表から医薬品、医療機器の世界に足をつっ込んだ自分だけ、か。

※2016年7月12日現在、正式には未確定で理化学研究所による命名案。

[1] 国立研究開発法人 理化学研究所 仁科加速器研究センター. 113番元素特設ページ. <http://www.nishina.riken.jp/113/index.html> (accessed 2016-07-12)

[2] 一般財団法人 高度情報科学技術研究機構. トロチウムによる放射線の晩発障害. [http://www.rist.or.jp/atomica/data/dat\\_detail.php?Title\\_Key=09-03-01-11](http://www.rist.or.jp/atomica/data/dat_detail.php?Title_Key=09-03-01-11) (accessed 2016-07-12)

[3] National Aeronautics and Space Administration. Radioisotope Power Systems: New Horizons. <https://solarsystem.nasa.gov/rps/newhorizons.cfm> (accessed 2016-07-12)

## ■ 「平成28年度JAPICユーザ会」を開催しました

JAPICでは、ユーザの皆様へJAPICが提供する安全性に関する情報等の内容を知っていただくため、毎年1回、東京と大阪で「JAPICユーザ会」を開催しております。今年は6月3日（金）ブリーゼプラザ（大阪）、6月7日（火）日本薬学会長井記念ホール（東京）で開催し、大阪90名、東京145名の方にご出席いただきました。

今年度の事業案内は、最近お問合せを多くいただいている下記のJAPIC事業を中心にご紹介させていただきました。

### ◆平成28年度事業トピックス

- ① JAPIC医薬品情報総合検索サービスPharmaCross
- ② JAPIC Daily Mail、JAPIC Daily Mail Extra
- ③ JAPIC-Q医療機器情報サービス-再生医療等製品情報の提供-

昨年度にサービスを開始したPharmaCrossや、多くの製薬企業様にご利用いただいているJAPIC Daily Mailの付加サービスとなるJAPIC Daily Mail Extraなどについて、多くの方に興味を持っていただいたようです。

JAPICの事業案内に続いて、今年度は製薬企業の方を2名、講師としてお招きし、特別講演を行いました。

### ◆特別講演

- ① 「RMP導入後の企業における安全監視活動のあり方」  
ファイザー株式会社 執行役員 信頼性保証本部長 山田 純子 先生
- ② 「再審査適合性調査について」  
第一三共株式会社 信頼性保証本部 安全管理推進部長 荒井 美由紀 先生

1つ目の講演では、ファイザー株式会社（ファイザー・ジャパン）が考えるRMPのあるべき姿についてご紹介いただき、安全監視活動のあり方につきまして、具体的に説明していただきました。

2つ目の講演では第一三共株式会社の経験から、再審査適合性調査について、スケジュールや概要など具体的な事例としてご紹介いただきました。

いずれの講演もご参加いただいた皆様からは、他の企業の活動状況を知る機会となり、大変参考になったとご好評いただきました。

ユーザ会終了後に行いました懇親会には、東京、大阪ともに多くの皆様にご参加いただきました。懇親会やアンケートでいろいろなご意見を頂戴しました。ユーザの皆様への役に立つサービスを継続して提供していけるように、いただいた課題にも真摯に向き合って参りますので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

## 「理事会」「評議員会」の概要報告

5月30日(月)に平成28年度第1回理事会、6月22日(水)に平成28年度第1回評議員会をそれぞれ開催いたしました。

今回の主な議題でありました平成27年度事業報告・決算報告においては、事業及び決算ともに概ね順調に推移していることをご報告し、原案どおり承認・議決されました(議題は以下のとおり)。なお、会員の皆様には、平成27年度事業報告書・決算報告書を先般お送りいたしました。

また、評議員及び役員の異動について、以下のとおりお知らせいたします。

### ○「平成28年度第1回(通算第135回)理事会」

5月30日(月) 16:00~16:50、当センター4階会議室

#### 《議題》

1. 平成27年度事業報告の承認について
2. 平成27年度決算報告の承認について
3. 公益目的支出計画実施報告の承認について
4. 定時評議員会の招集の決定について
5. 報告事項
  - (1) 維持会員の異動について
  - (2) 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告について

### ○「平成28年度第1回(通算第40回)評議員会」

6月22日(水) 16:00~16:55、当センター4階会議室

#### 《議題》

1. 評議員の選任について
2. 役員の選任について
3. 平成27年度決算報告の承認について
4. 報告事項
  - (1) 平成27年度事業報告について
  - (2) 公益目的支出計画実施報告について

### 【評議員及び役員の異動】

#### 《評議員》

退任: 土屋 裕(エーザイ株式会社 代表執行役 医療政策担当 兼 中国事業担当)  
野瀬 耕二(前 日本製薬団体連合会 常務理事)  
望月 眞弓(慶應義塾大学薬学部 教授)  
新任: 加藤 弘之(エーザイ株式会社 執行役 メディソン開発センター センター長)  
高田 義博(日本製薬団体連合会 常務理事)

#### 《理事》

退任: 東條 俊明(第一三共株式会社 専務執行役員ワクチン事業管掌)  
高見澤 博(一般財団法人日本医薬情報センター理事(常勤)、事務局長)  
新任: 荒井 美由紀(第一三共株式会社 信頼性保証本部安全管理推進部長)  
五十嵐 浩(一般財団法人日本医薬情報センター理事(常勤)、事務局長)

#### 《監事》

退任: 箆橋 雄二(前 鳥居薬品株式会社 専務取締役)  
新任: 假屋 ゆう子(鳥居薬品株式会社 取締役 信頼性保証グループリーダー)

以上、いずれも6月22日付  
(※敬称略)

## ❖ JAPICサービスの紹介 ❖

### ■ 医薬品情報データベースiyakuSearch

<http://database.japic.or.jp/>

#### <iyakuSearchとは>

JAPICが提供する国内外の医薬品情報に関するデータベースポータルです。

無料のデータベースを集約した“iyakuSearch”と、これに利用者登録または契約を必要とするデータベースを含めた“iyakuSearch Plus”の二つのトップ画面を用意しています。

#### <iyakuSearchのコンテンツ>

iyakuSearchは「医薬品情報データベースを医療関係者の方々に広く利用していただくこと」を目的に開発され、平成16年10月に「医薬文献情報」「学会演題情報」「規制措置情報（現在の「JAPIC Daily Mail DB」）」を公開し、同年11月に「医療用医薬品添付文書情報」を公開しました。

その後、「一般用医薬品添付文書情報」「臨床試験情報」「日本の新薬」「学会開催情報」「医薬品類似名称検索」とデータベースを追加し、平成21年4月に「効能効果の対応標準病名」をリリースしました。

#### <iyakuSearch Plus>

平成20年4月に利用登録者または契約機関向けのサービスとしてリリースしました。

クッキー認証やIPアドレス認証など、認証機能を充実・強化するとともに、利便性を向上するため、「医薬文献情報」検索結果から、J-STAGE (JST) で提供されている無料の電子ジャーナルへのリンク機能を実装しました。

#### <利用者登録>

JAPIC維持会員機関に所属されている方は、無料でユーザIDとパスワードを発行いたします。iyakuSearchトップ画面右下の[利用者登録]ボタンをクリックしていただき、表示されるメンバー登録申し込みページに必要事項を記入し、お申込みください。

#### <ログイン方法>

iyakuSearchトップ画面右下にある[△ログイン]ボタンをクリックし、表示されるログイン画面にお手元のユーザIDとパスワードを入力していただき、[ログイン]をクリックしてください。

ここで入力したユーザIDとパスワードはご利用のパソコンにクッキーとして登録されますので、次回iyakuSearchにアクセスすると、自動的にiyakuSearch Plusに誘導されます。

#### <iyakuSearchスマートフォン対応版>

iyakuSearchを携帯情報端末の画面用に適正化させたサービスです。PC用のiyakuSearchと同様の認証機能・利用者登録機能・検索機能を実装しています。アクセスURLも同じです。

iyakuSearchのうち、「医薬文献情報」「学会演題情報」「医療用医薬品添付文書情報」「一般用医薬品添付文書情報」の4つのデータベースをiPhone、Android、iPad、タブレット端末等の画面に適正化された検索画面を提供します。

#### <検索講習会>

JAPICではJAPIC維持会員機関を中心に、ご要望に応じてiyakuSearch検索講習会を実施しています。講習会の模様は本誌既刊にも掲載しておりますので、ご一読ください。

## <iyakuSearch/iyakuSearch Plus コンテンツ一覧>

国内外の医薬品情報を提供します。

区分	内容	情報源	収録データ	データ内容	データ更新	ご利用料金	登録
① 医薬文献情報 スマートフォン対応 コンテンツ	医薬品の有効性や安全性に関する文献情報	雑誌論文 (国内誌約430誌、 海外誌13誌)	1983年以降 約48万件	書誌的事項 (標題、著者名・所属機関、雑誌名等) 付加情報(有料): 医薬品名、疾病名、副作用名等の内 容に関するキーワード、抄録	月1回	無料	付加情報 ご利用の場合、 [iyakuSearch Plus] の利用者 登録が必要
② 学会演題情報 スマートフォン対応 コンテンツ	医薬品の有効性や安全性に関する学会情報	国内開催の 5,100学会発表演題・ プログラム	1993年以降 約114万件	書誌的事項 (標題、演者・研究者名・所属機 関、学会名等) 付加情報(有料): 医薬品名、副作用名、安全性に 関するキーワード	月1回		
③ 医療用・一般用 添付文書情報 スマートフォン対応 コンテンツ	医療用、一般用医薬品 添付文書情報	医療用、一般用 医薬品添付文書	医療用医薬品 約21,500品目 一般用医薬品 約11,000品目	医療用、一般用医薬品 添付文書PDF	医療用 週1回 一般用 月1回	無料	不要
④ 臨床試験情報	臨床試験(臨床研 究・治験等)の概要 及び結果	登録者からの情報	登録者からの 情報	試験の名称・概要、試験の内容、 (薬剤名、疾患名、目的、フェー ズ、デザイン等)、問い合わせ先	随時		
⑤ 日本の新薬	新薬の承認に 関する内容	新薬承認審査 報告書	1998年1月 公開分以降 約950品目	新薬承認審査報告書の全文、 構造式、医薬品名、申請区分、 剤形、会社名等	随時		
⑥ 学会開催情報	国内の医学・薬学関 連の学会、地方会等 の開催情報	雑誌、業界紙、 学会ホームページ等	1996年以降	学会名、開催日、開催地、会場名、 連絡先、予稿集入手状況等	月2回		
⑦ 医薬品 類似名称検索	医薬品名称の類似 性を客観的に判断す る為の検索システム	医療用添付文書	医療用医薬品の 名称約9,300件	既存医薬品名称の類似性について の各種指標(新規医薬品名称につ いては有料)	随時		
⑧ 効能効果の 対応標準病名	医療用医薬品添付 文書の効果効能に 対応する標準病名を 関連付け相互に検索	標準病名マスター、 JAPIC病名辞書、 医療用添付文書	医療用医薬品 約21,500品目、 標準病名 約17,000	病名、商品名、一般名、薬効分類、 ICD10から検索可能	月1回	利用者 登録が必要	
⑨ JAPIC Daily Mail DB	医薬品及び医療機 器の安全性に関する 規制措置情報	海外及び国内の 規制当局の ホームページ (約90サイト)	2004年1月 からのメール 配信情報	JDM No.及び送信日、情報発信 国及び発信機関、日本語概要、該 当原文ファイル	毎日	有料 JAPIC会 員でJDM ご利用機 関所属の 方は無料	利用者 登録が必要

■ iyakuSearch: 無料データベース (どなたでも無料で検索できます)    ■ iyakuSearch Plus: 有料データベース

iyakuSearch Plusへの利用者登録、IPアドレス認証、検索講習会等のお問い合わせについては、業務・渉外担当までご連絡ください。(TEL: 0120-181-276、E-mail: gyoumu@japic.or.jp)

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2016年6月1日～6月30日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.553-557) の記事から抜粋

## ■米FDA

- 新生児opioid離脱症候群とmethadoneおよびbuprenorphineによる薬物支援治療  
<<http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/ucm503630.htm>>
- Zecuity (sumatriptan) 片頭痛治療用パッチ : Drug Safety Communication—熱傷および癍痕リスクに関する米FDAの評価  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm504736.htm>>
- aspirinを含有する制酸剤 (OTC製品) : FDA Drug Safety Communication—重篤な出血リスクについて  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm505190.htm>>
- loperamide (Imodium) : Drug Safety Communication—乱用および誤用からの高用量の服用による重篤な心臓障害  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm505303.htm>>
- canagliflozin (Invokana, Invokamet) およびdapagliflozin (Farxiga, Xigduo XR) : Drug Safety Communication—腎臓に関する警告の強化  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm506554.htm>>

## ■Health Canada

- Summary Safety Review : 永続的避妊システムESSURE—アレルギー反応、異常出血／月経変化を含む合併症のリスクおよびデバイス除去の潜在的必要性を評価  
<[http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/essure-  
.php](http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/essure-<br/>.php)>
- Summary Safety Review : hydroxyzine (ATARAXおよびジェネリック製品) —潜在的な不整脈のリスク評価  
<<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/atarax-eng.php>>
- Summary Safety Review : denosumab (ProliaおよびXgeva) —難聴について  
<<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/denosumab-eng.php>>
- Summary Safety Review : TYSABRI (natalizumab) —溶血性貧血の潜在的リスクに関する評価  
<<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/tysabri-eng.php>>
- Summary Safety Review : ULORIC (febuxostat) —好酸球増加と全身症状を伴う薬物反応／薬疹 (DRESS) の潜在的リスクに関する評価  
<<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/reviews-examens/uloric3-eng.php>>

## ■EU・EMA

- first-in-human臨床試験の安全性の改善  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2016/05/WC500207280.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2016/05/WC500207280.pdf)>
- Upravi (selexipag) を使用している医療専門家向け教育用パンフレットおよび患者用服薬日誌  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Other/2016/05/WC500207547.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Other/2016/05/WC500207547.pdf)>

## ■仏ANSM

- 子宮内で特定の抗うつ剤に曝露した小児における神経発達障害のリスク  
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Risque-de-troubles-neuro-developpementaux-chez-les-enfants-exposes-in-utero-a-certains-antidepressifs-Point-d-information>>

## ■ニュージーランドMedsafe

- rivaroxaban, dabigatranおよびapixabanと毛髪脱落 (脱毛症) の潜在的リスクを医薬品モニタリングスキームに追加  
<<http://www.medsafe.govt.nz/safety/EWS/2016/RivaroxabanDabigatranAndApixabanRiskofHairLoss.asp>>
- Erivedge : 骨端早期閉鎖のリスク  
<<http://www.medsafe.govt.nz/safety/DHCPLetters/ErivedgeJune2016.pdf>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介 : <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

### 【新着資料案内 平成28年6月1日～6月30日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧いただけます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈 配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順 〉

書名	著編者	出版者	出版年月
OTC医薬品事典<2016-17> 第15版	日本OTC医薬品情報研究会 編	株式会社じほう	2016年4月
細胞治療認定管理師制度指定カリキュラム	細胞治療認定管理師制度審議会 カリキュラム委員会 編	日本輸血細胞治療学会	2016年6月
疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2013年版) 準拠 第1巻(内容例示表)	厚生労働省大臣官房統計情報部 編	一般財団法人厚生労働統計協会	2016年5月
疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2013年版) 準拠 第2巻(総論)	厚生労働省大臣官房統計情報部 編	一般財団法人厚生労働統計協会	2016年5月
ストレスチェック対応 メンタルヘルス実践学	芦原 睦 編著	有限会社フジメディカル出版	2016年6月
フレイルハンドブック-ポケット版-	荒井秀典 編	株式会社ライフサイエンス	2016年3月
2016年版 保険調剤の手引き	公益社団法人茨城県薬剤師会	公益社団法人茨城県薬剤師会	2016年7月

## 情報提供一覧

【平成28年7月1日～7月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	<a href="http://database.japic.or.jp/">http://database.japic.or.jp/</a>
1. 「添付文書入手一覧」2016年6月分 (HP定期更新情報掲載)	7月1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「一般用医薬品 (経済課コード)」2016年6月分 (HP定期更新情報掲載)	7月1日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. 「JAPIC医薬品・一般用医薬品集インストール版 (CD-ROM)」	7月25日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. 「JAPIC OTC医薬品CD-ROM」	7月29日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. 「JAPIC NEWS」No.388 8月号	7月29日	5. 臨床試験情報	随 時
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		6. 日本の新薬	随 時
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」No.1039-1042 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	8. 医薬品類似名称検索	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
4. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.3680-3699	毎 日	〈iyakuSearchPlus〉	<a href="http://database.japic.or.jp/nw/index">http://database.japic.or.jp/nw/index</a>
5. 「JAPIC Weekly News」No.558-561	毎週木曜日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
6. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.649-652	毎週月曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉	<a href="http://jdream3.com/">http://jdream3.com/</a>
		〈株式会社日本経済新聞社から提供〉	<a href="http://telecom.nikkei.co.jp/">http://telecom.nikkei.co.jp/</a>

JAPIC

# 医療用医薬品集2017 (CD-ROM付)



- ◆分冊にて製作(ケース入り)
- ◆2016年6月後発品まで収録
- ◆約40年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
- ◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」と「薬剤識別コード一覧」を収録
- ◆更新情報メールの無料提供(要登録)
- ◆CD-ROM付

好評発売中!!

B5判 約4,200頁 / 13,000円(+税)

## Windows版 CD-ROM収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新添付文書画像(PDF)の表示機能付  
(無料・要インターネット接続。  
医療用医薬品は週1回、一般用医薬品は月1回更新)

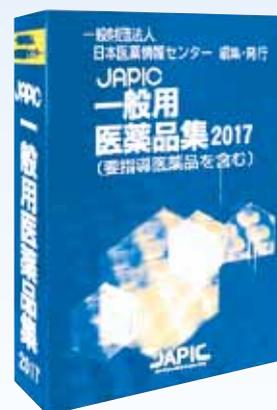
JAPIC

# 一般用医薬品集2017 (要指導医薬品を含む)

- ◆約40年の編集実績による信頼と使いやすさ。
- ◆最新の一般用医薬品添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集。
- ◆国内流通医薬品をほぼ網羅する11,000製品を収録。「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載。
- ◆個々の製品について製造・販売会社、組成、添加物、適応、用法、リスク区分を記載。
- ◆付録には、リスク区分情報、ブランド名別成分比較表、国内副作用報告の状況、重篤副作用疾患別対応マニュアル等を収録。

好評発売中!!

B5判 約2,000頁 / 9,000円(+税)



一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行 TEL 0120-181-276  
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

# Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

## つりがねにんじん

釣鐘人參と書く。学名: *Adenophora triphylla* var. *japonica* (Regel.) Hara. 英名: Three leaved ladybell。ききょう科つりがねにんじん属。多年生草本。各地に自生する。花期は夏~秋、可憐な釣鐘状の紫色の花が下向きに付く。根はオタネニンジンの如く地中に深く伸び60~80センチに達する。根茎にはLupenone等のトリテルペン配糖体含有。(hy)



JAPICホームページより  
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。